

# MOTIF-RACK Multi Part Editor

## マニュアル

### 目次

マルチパートエディターとは .....	2
Studio Manager とは .....	3
Total Recall ( トータルリコール ) とは .....	3
マルチパートエディターのファイル構成 .....	4
Open Plug-in Technology について .....	5
マルチパートエディターの起動 .....	6
マルチパートエディターの操作の流れ .....	7
リモートコントロール時のポート設定について .....	11
メニューバー .....	17
ツールバー .....	20
パートミキサーウィンドウ .....	21
ダイアログの詳細 .....	30
リモート機能 .....	34
トラブルシューティング .....	37

- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このファイルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、このファイルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- このマニュアルファイル内の「**赤色**」の文字をクリックすると、関連する項目にジャンプします。

このマニュアルは、お客様がWindows/Macintoshの基本的な操作方法について十分おわかりいただいていることを前提に書かれています。Windows/Macintoshの操作方法については、Windows/Macintoshに付属のマニュアルをご参照ください。

マルチパートエディターを使用するために必要なコンピューター環境、機器の接続、マルチパートエディターのインストールについては、別冊のインストールガイドおよびご使用のMIDI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

#### メニュー/ボタン名の表記について

Windows と Macintosh でメニュー や ボタンの名称が異なる場合、この取扱説明書では Windows での名称 (Macintosh での名称) という形で表記します。

# マルチパートエディターとは

マルチパートエディターは、MOTIF-RACKをマルチ音源（マルチモード）として使用する場合に、パートパラメーター（Volume、Pan、EG、Cutoffなど）やエフェクトなどさまざまなパラメーターを、コンピューター画面を使って視覚的に確認しながらエディット（編集）できるユーティリティソフトウェアです。

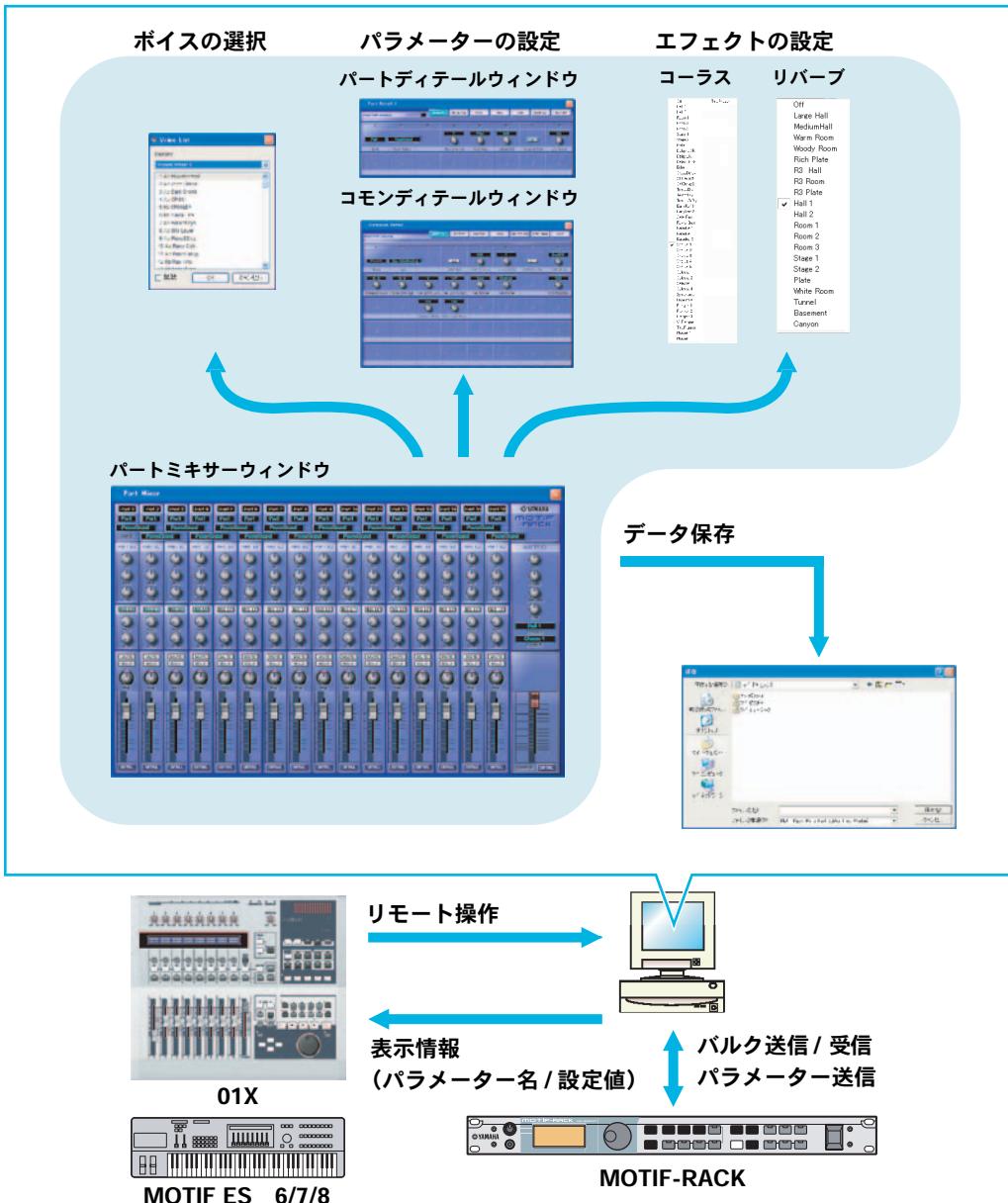
エディットしたデータをMOTIF-RACKへバルク送信したり、MOTIF-RACK内のデータをバルクで読み込んでエディットしたりできます。

さらに、MOTIF ESやヤマハデジタルミキシングスタジオ01Xなどのリモート機器を使えば、リモート機器側でエディット内容を確認しながら、MOTIF-RACKのパラメーターのエディットを行なうことができます。

このマルチパートエディターは、

- Studio Manager
- OPT対応シーケンサー

のプラグインとして利用することができます。



# Studio Manager とは

Studio Managerは、ヤマハのハードウェア製品をリモートコントロールする複数のエディターソフトウェアを起動させたり、複数のエディター設定を保存したりする共通のプラットフォームです。

詳細はインストールガイドやStudio Manager取扱説明書(PDFマニュアル)をご参照ください。

# Total Recall ( トータルリコール ) とは

各エディターの設定は、Studio Manager でまとめて保存/呼び出せます。すなわち、複数の機器の設定をStudio Manager からまとめて呼び出す(リコール)ことにより、システム全体の設定を簡単な操作で変更することができます。この機能をトータルリコールと呼びます。

また、設定ファイルを保存したり機器と同期をとったりする場合、Studio Manager から操作すれば複数の機器をまとめてリコール、各エディターで操作すればその機器だけをリコール、と使い分けることもできます。

トータルリコールする手順については、Studio Manager取扱説明書(PDFマニュアル)をご参照ください。

Studio Manager ウィンドウの「MOTIF-RACK Multi Part Editor」アイコンを右クリック→「Configure Total Recall」で、リコールするデータを選択できます。選択できるデータは、エディターによって異なります。

MOTIF-RACKでは、以下のとおりです。

- All : Multi データ、Normal User 1、2、Drum User Voice データのすべてをリコール
- Multi : Multi データをリコール
- Normal User 1 Voice : Normal User 1 Voice データをリコール
- Normal User 2 Voice : Normal User 2 Voice データをリコール
- Drum User Voice : Drum User Voice データをリコール  
(Multi、Normal User 1、2、Drum User Voice は複数選択できます。)

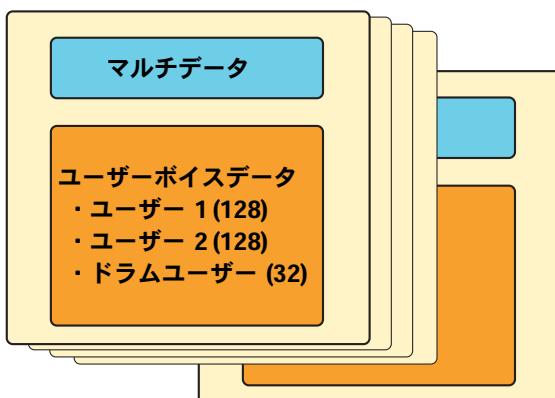
**NOTE** Studio Managerの[Synchronize]メニュー→[Total Recall]で「From Hardware」(本体の状態をStudio Manager(各エディター)にコピー)を選択している場合、Solo/Muteの情報はリコールされません。

# マルチパートエディターのファイル構成

MOTIF-RACK本体では、すべてのマルチで一つのユーザーVoicesを使用しているため、あるユーザーVoicesを変更すると、そのVoicesを使っているすべてのマルチが変更されます。それに対し、マルチパートエディターでは、1つのファイル内にマルチデータ（パンやボリューム、エフェクトなどのミキシングデータ）だけでなくユーザーVoicesデータも含んでいるため、マルチを作成した時点のユーザーVoicesを管理（保存/再現）することができます。たとえば、マルチパートエディターで作成したマルチを演奏したい場合に、MOTIF-RACK本体内のユーザーVoicesがマルチ作成時の状態から変更されていても、マルチパートエディター内のユーザーVoicesデータをMOTIF-RACKに送信(P.32)することによって、マルチを作成したときの状態が再現できます。

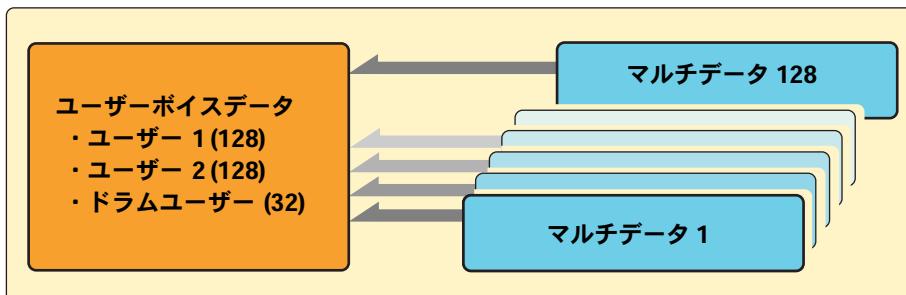
**NOTE** マルチパートエディターのユーザーVoicesをMOTIF-RACKに送信すると、MOTIF-RACKに保存されているユーザーVoicesは失われます。ご注意ください。

## マルチパートエディターのファイル (.M5E) の構成



各ファイルには、マルチデータだけでなく、そのマルチで使用しているユーザーVoicesのデータも含まれる。

## MOTIF-RACK 本体のマルチの構成



すべてのマルチで1つのユーザーVoicesを共有（それぞれのマルチに対応したユーザーVoイスデータがあるわけではない）

# Open Plug-in Technology について

Open Plug-in Technology( 以下OPT) は、DAW アプリケーションなどのソフトウェアからMIDI 機器をコントロールするための新しいソフトウェアプラグインフォーマットです。たとえば、シンセサイザー、プラグインボードの音色エディターや、ミキサーをコントロールするエディターなどを、別々に起動させるのではなく、OPT に対応したアプリケーションの中で動作させることができます。アプリケーションごとにMIDI ドライバーの設定などをする必要がなくなり、音楽制作をより快適でシームレスに行なう環境を実現します。

従来のOPT に加えて、トータルリコールを実現するためのOpen Plug-in Technology Version 2( 以下OPT2) があります。Studio Manager は、OPT2 対応のホストアプリケーションです。

## OPT のレベルと概要

OPT 対応のホストアプリケーションは、以下の3 つのレベルに分けられます。



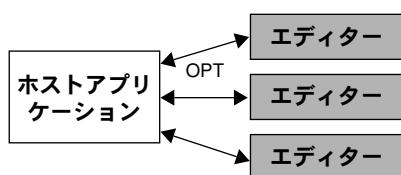
**レベル1(PANELS)**のホストアプリケーションでは、プラグインソフトウェアの基本的な機能をサポートしており、代表的な例としては、コンピューター上でプラグインソフトウェア(エディターなど)のパネルを使って音色エディットができます。



**レベル2(PROCESSORS)**のホストアプリケーションでは、プラグインソフトウェアからMIDI データを受信するなど、レベル1 よりも一歩進んだエディットができます。プラグインソフトウェアの多くの機能をサポートしていますが、一部対応していない機能(イベント挿入など)があります。



**レベル3(VIEWS)**のホストアプリケーションでは、プラグインソフトウェアが持っているすべての機能が動作します。ヤマハのシーケンスソフト「SOL」や「SQ01」はOPT レベル3(VIEWS) に対応しています。



OPT 対応のプラグインソフトウェアは、OPT 対応のホストアプリケーションに直接プラグインされます。

## MOTIF-RACK Multi Part Editor動作表

MOTIF-RACK Multi Part Editorは、以下のように動作します。

ホストアプリケーション対応レベル	MOTIF-RACK Multi Part Editorの動作	
	動作可否	機能制限の内容
VIEWS(レベル3) 	動作する	なし
PROCESSORS(レベル2) 	動作する	なし
PANELS(レベル1) 	動作する	バルク受信、リモートコントロールに未対応

MOTIF-RACK Multi Part Editorはレベル2(PROCESSORS)、レベル3(VIEWS)のホストアプリケーションではすべての機能が動作します(ホストアプリケーションによっては、リモートコントロールが機能しません)。レベル1(PANELS)のホストアプリケーションではバルク受信およびリモート操作ができません。

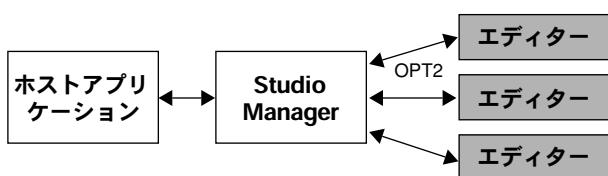
**NOTE** ホストアプリケーション側に対応する機能がない場合は、期待どおりに動作しない場合があります。

対応レベルは、OPTのロゴで確認できます(ホストアプリケーションのバージョン情報などに表示されます)。

## OPT2 の概要



OPT2 は、OPT のレベル1(PANELS) を発展させて、快適にトータルリコールするための機能を付加したソフトウェアプラグインフォーマットです。Studio Manager をホストアプリケーションとしたトータルリコールだけでなく、トータルリコール対応のDAW アプリケーション上でも Studio Manager を経由してトータルリコールを実現します。



OPT2 対応のプラグインソフトウェアは、OPT2対応のホストアプリケーション(Studio Managerなど)経由でトータルリコール対応DAW アプリケーションに間接的にプラグインされます。

## マルチパートエディターの起動

マルチパートエディターのインストールと必要な接続を行なったあと、以下の操作でマルチパートエディターを起動します。

### ● マルチパートエディターをStudio Managerから起動する

1. Total Recall対応DAWのプラグインとして、または単独のアプリケーションとしてStudio Managerを起動します。
2. 次に、Studio Manager ウィンドウからMOTIF-RACK Multi Part Editorを起動します。

詳細は、インストールガイドやStudio Manager取扱説明書(PDFマニュアル)をご参照ください。

### ● マルチパートエディターをOPT対応シーケンスソフトのプラグインとして起動する

Open Plug-in Technology (OPT) 対応のホストアプリケーション(SOLやSQ01など)のプラグインとしてマルチパートエディターを起動することができます。詳しくは、それぞれのホストアプリケーション(シーケンスソフトなど)の取扱説明書/電子マニュアルをご参照ください。以下はSOL/SQ01の例です。

1. ホストアプリケーションを起動します。
2. ホストアプリケーションの[プラグイン]メニューから、「MOTIF-RACK Multi Part Editor」を選択します。

# マルチパートエディターの操作の流れ

さまざまなユニットから構成されるマルチパートエディターの使い方には、決まった操作手順はありません。どのユニットから操作しても構いませんが、次のような操作の流れを参考に、目的にあった設定を行なってください。マルチパートエディターを起動すると最初に表示されるマルチパートウィンドウから説明を始めます。

**♪NOTE** MOTIF-RACKは、マルチモードに設定してください。

1. ツールバーの[エディター設定]をクリックして、エディター設定ダイアログを開きます。

ここで、マルチパートエディターでの操作を有効にするために、入出力用ポートやデバイスナンバーを設定します。詳細は、「設定」ダイアログ(P.31)をご参照ください。

**♪NOTE** OPTまたはTotal Recall非対応のDAWをお使いの場合

単独で起動したStudio Managerと、お使いのシーケンサー同時に使用する場合は、USB-MIDI Driver画面でシーケンサソフトのMIDIポートとマルチパートエディターMIDIポートをマージ(つなぎあわせ)する必要があります(P.9)。

2. マルチパートエディターで使用するユーザー voices を、MOTIF-RACK 本体から (P.33)、またはボイスエディターのファイルから (P.17)、読み込みます。

**♪NOTE** 一度読み込んだユーザー voices は、マルチパートエディターのファイルの一部として保存できるので、次回マルチパートエディターを起動したときにも使用できます。MOTIF-RACK本体やボイスエディターで新しくユーザー voicesを作成したときには、再度ユーザー voices をマルチパートエディターに読み込み、マルチパートエディター上のユーザー voicesデータを最新の状態にしてください。

**♪NOTE** いずれのパートにもユーザー voicesを使用しない場合には、ユーザー voicesデータを読み込む必要はありません。

3. MOTIF-RACK からマルチのデータを、マルチパートエディターに読み込みます。詳細は、マルチデータのバルク受信(P.18)を参照ください。

**♪NOTE** 初期状態のままマルチパートエディターをお使いになる場合は、この操作は必要ありません。その場合はマルチデータを送信し(P.17)、マルチパートエディターとMOTIF-RACKの設定を合わせてください。

(1) 読み込みたいマルチのデータをMOTIF-RACK側で設定します。

(2) ツールバーにある[Multiデータバルク受信]をクリックし、マルチのデータを受信します。

4. 各パートのボイスを選択します。

(1) 各パートのバンク名もしくはボイス名のボックスをクリックすると、「Voice List」ダイアログが表示されます。

(2) パートにアサインしたいボイスをリストから選択します。

5. パートミキサーワンドウで各種パラメーターの設定を行ないます。

また、パートセクションもしくはコモンセクションの[DETAIL]をクリックし、それぞれのDETAIL画面でより詳細な設定を行なうこともできます。

6. ツールバーにある[上書き保存]をクリックし、マルチパートエディターでエディットしたデータをファイルに保存します。

ソングごとにマルチパートエディターのデータをファイル(M5E)に保存します。次回そのソングを演奏するときに、そのファイルをマルチパートエディターで開くだけで、自動的にMOTIF-RACKにバルクが送信され、設定が完了します。

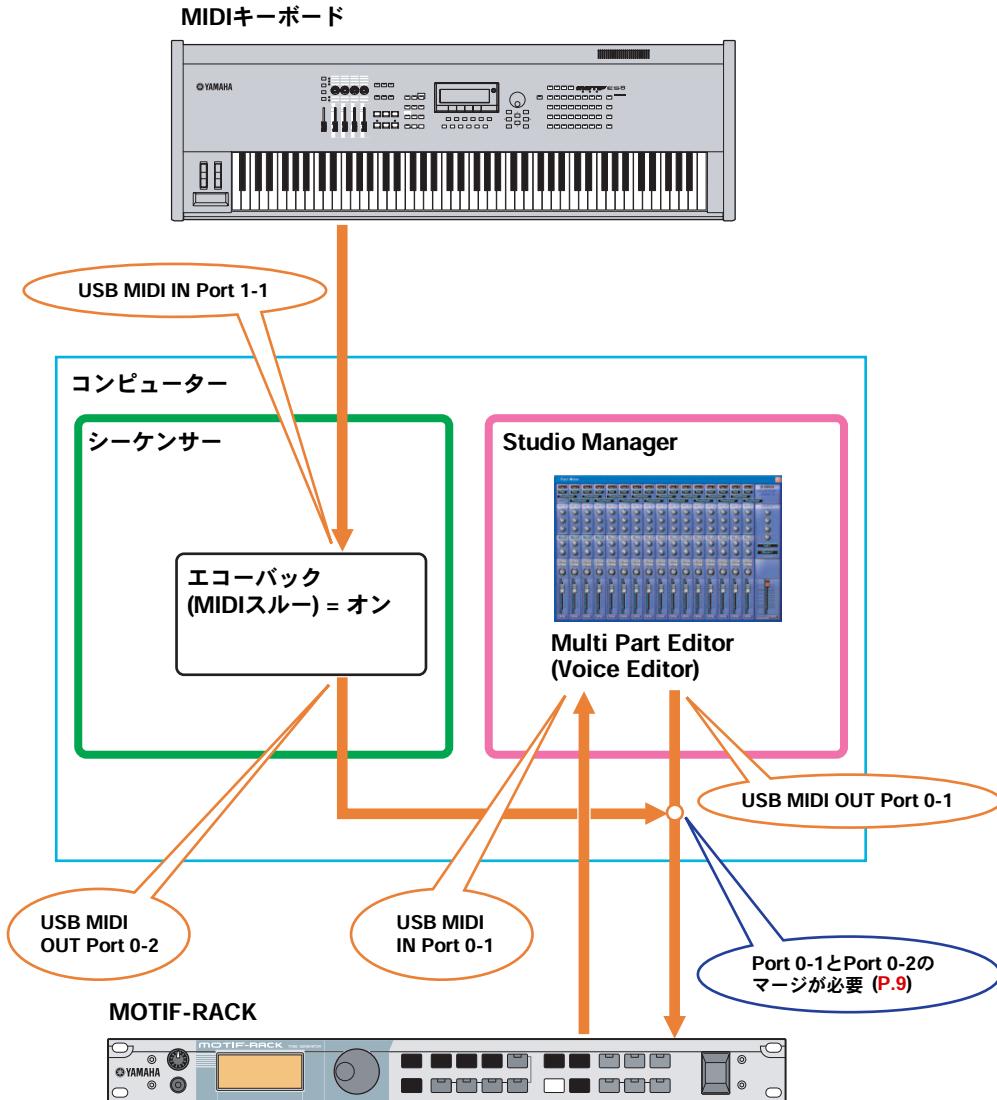
また、SOL / SQ01のようなOPT対応のホストアプリケーションを利用することで、マルチパートエディターのデータをホストアプリケーションのソングデータの一部として、保存することもできます。

- マルチパートエディターを Studio Manager から起動している場合は、Studio Manager のセッションファイルにマルチパートエディターのデータを保存することができます。
- Total Recall に対応した DAW と Studio Manager を組み合わせてお使いの場合は、マルチパートエディターのデータは、DAW のプロジェクトファイル(ソングファイル)の一部として保存されます。

## Studio Managerを単独で起動する場合のご注意

Studio Managerを単独で起動した場合で、外部キーボードを使ってMulti Part Editor (Voice Editor)でエディットしたパートやボイスの音色を確認するためには、同時にシーケンサーを起動する必要があります。以下の例のように、外部キーボードのMIDI入力が、シーケンサーのエコーバック(MIDIスルー)機能を使ってMOTIF-RACKに入力されるようにシーケンサーを設定してください。

### 接続例



## MIDI入力/出力ポートのマージ (OPTまたはTotal Recall非対応のDAWをお使いの場合)

単独で起動したStudio Managerと、お使いのシーケンサーを同時に使用する場合は、USB-MIDI Driver画面でシーケンスソフトのMIDIポートとマルチパートエディター MIDIポートをマージ（つなぎあわせ）する必要があります。

- (1) 「YAMAHA USB-MIDI Driver」ダイアログを表示します。

### Windows XPの場合

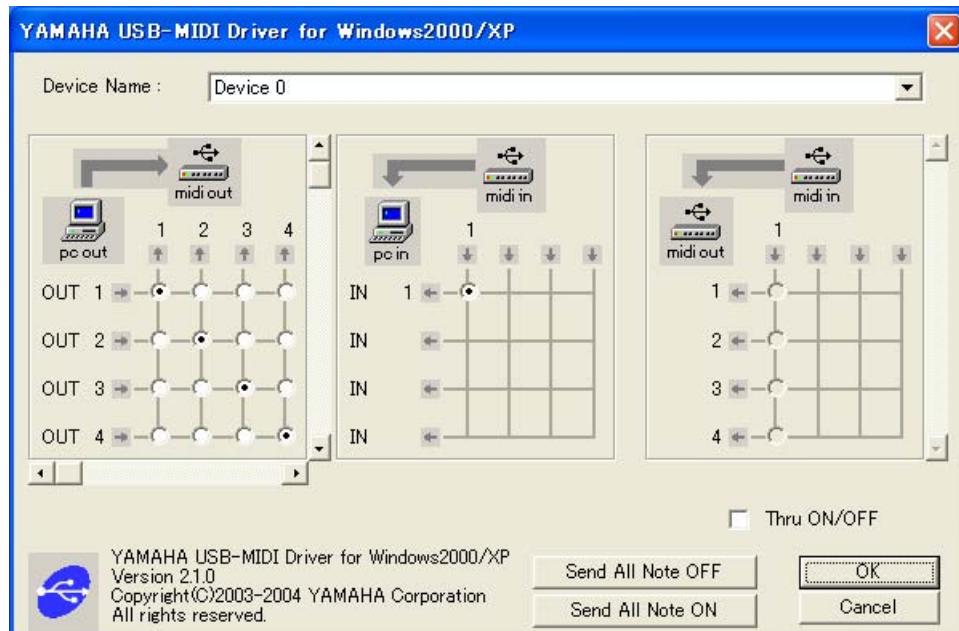
「スタート」メニュー→「コントロールパネル」から「MIDI-USB Driver」アイコンをダブルクリック

### OS Xの場合

「アップル」メニュー→「システム環境設定」から「YAMAHA USB-MIDI」アイコンをクリック

**■ NOTE** MOTIF-RACKとコンピューターがUSBで正しく接続され、かつMOTIF-RACKの電源がオンになっていないと「MIDI-USB Driver」アイコンは表示されません。

**■ NOTE** 0-1 や 0-2 などポート名の「0」は、コンピューターにUSBで接続されているMIDI機器の数を表しています。「YAMAHA USB-MIDI Driver」ダイアログ内の「Device Name」を、この数字と合わせて設定してください。



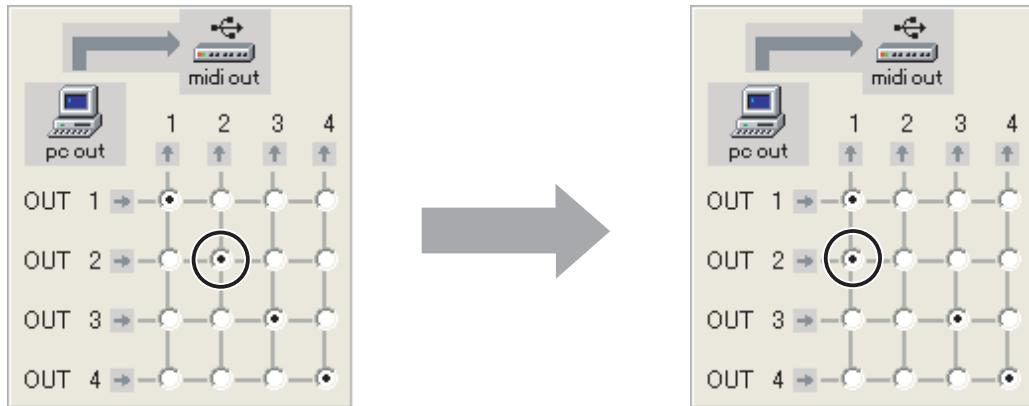
(2) 出力ポートをつなぎあわせします。

- OUT

シーケンサーと Multi Part Editor で使用している 2 つの出力ポートを、MOTIF-RACK の入力ポート 1 に入力されるように変更してください。

以下は、Studio Manager (Multi Part Editor) とシーケンサーで出力ポート 1, 2 を使用している例です。

OUT



(3) [OK]をクリックし、「YAMAHA USB-MIDI Driver」ダイアログを閉じます。

# リモートコントロール時のポート設定について

ここでは、マルチパートエディターやお使いのDAW/シーケンサーを、01XやMOTIF ESを使ってリモートコントロールする方法を説明します。

以下のイラストに従って、各アプリケーションソフトウェアや各機器のMIDIポートを設定してください。

- NOTE**
- マルチパートエディターでバルク受信する時は、シーケンスソフト側でMIDIスルーの設定をオフにしてください。
  - マルチパートエディターのポート設定は、「エディター設定ダイアログ(P.31)」で行ってください。

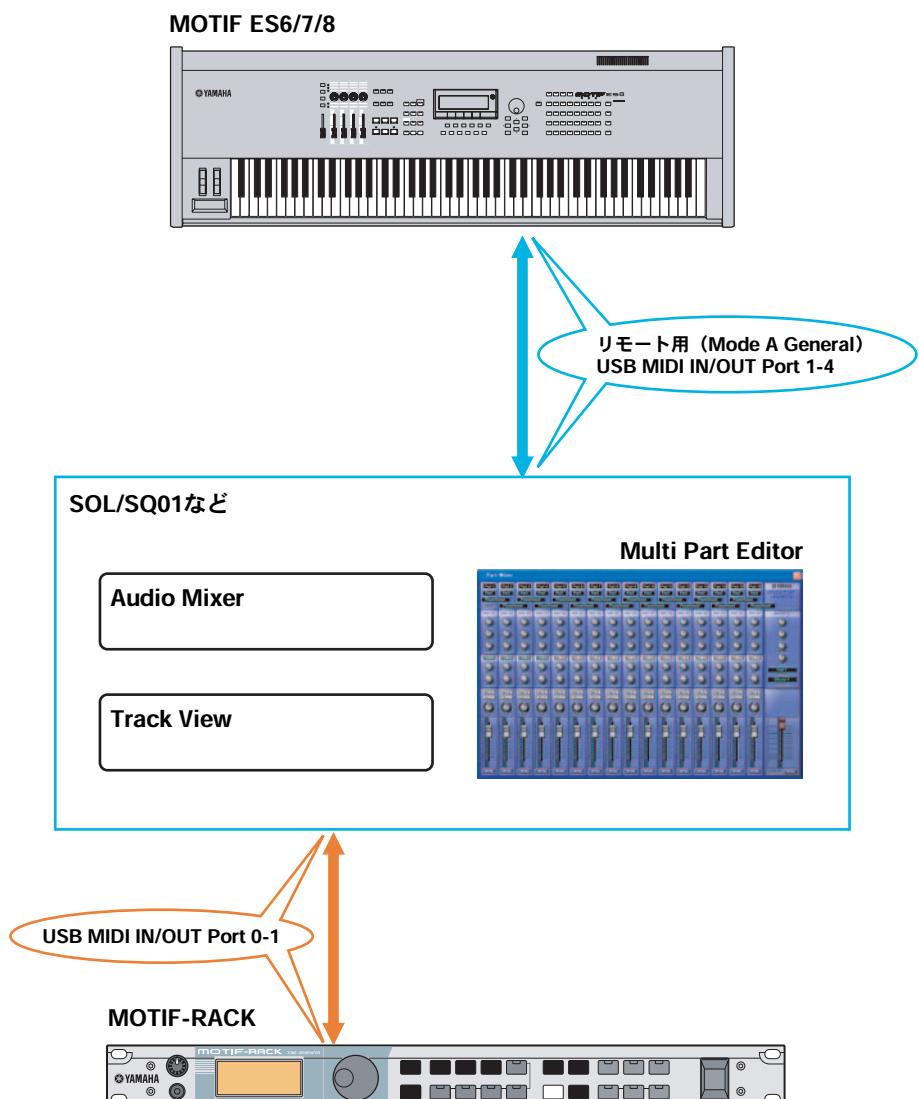
- NOTE** OPTまたはTotal Recall非対応のDAWをお使いの場合

単独で起動したStudio Managerと、お使いのシーケンサーを同時に使用する場合は、USB-MIDI Driver画面でシーケンスソフトのMIDIポートとマルチパートエディター MIDIポートをマージ（つなぎあわせ）する必要があります(P.9)。

## 1 MOTIF ESを使ってリモートコントロールをする場合

### 1.1. MOTIF ES + OPT対応シーケンサー(SOL/SQ01など) + Multi Part Editor + MOTIF-RACKの場合

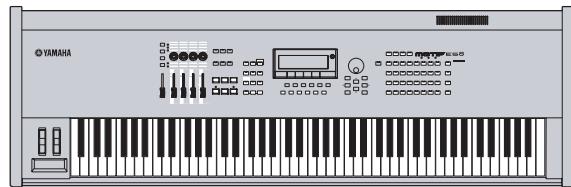
Portナンバーは自由に変更できます。



## 1.2. MOTIF ES + Total Recall対応シーケンサ(Cubase SX 3など) + Multi Part Editor + MOTIF-RACKの場合

Portナンバーは自由に変更できます。

MOTIF ES6/7/8



リモート用 (Mode A Cubase)  
USB MIDI IN/OUT Port 1-4

リモート用 (Mode B General)  
USB MIDI IN/OUT Port 1-3

Cubase SX 3など

Audio Mixer

Track View

Studio Manager



Multi Part Editor

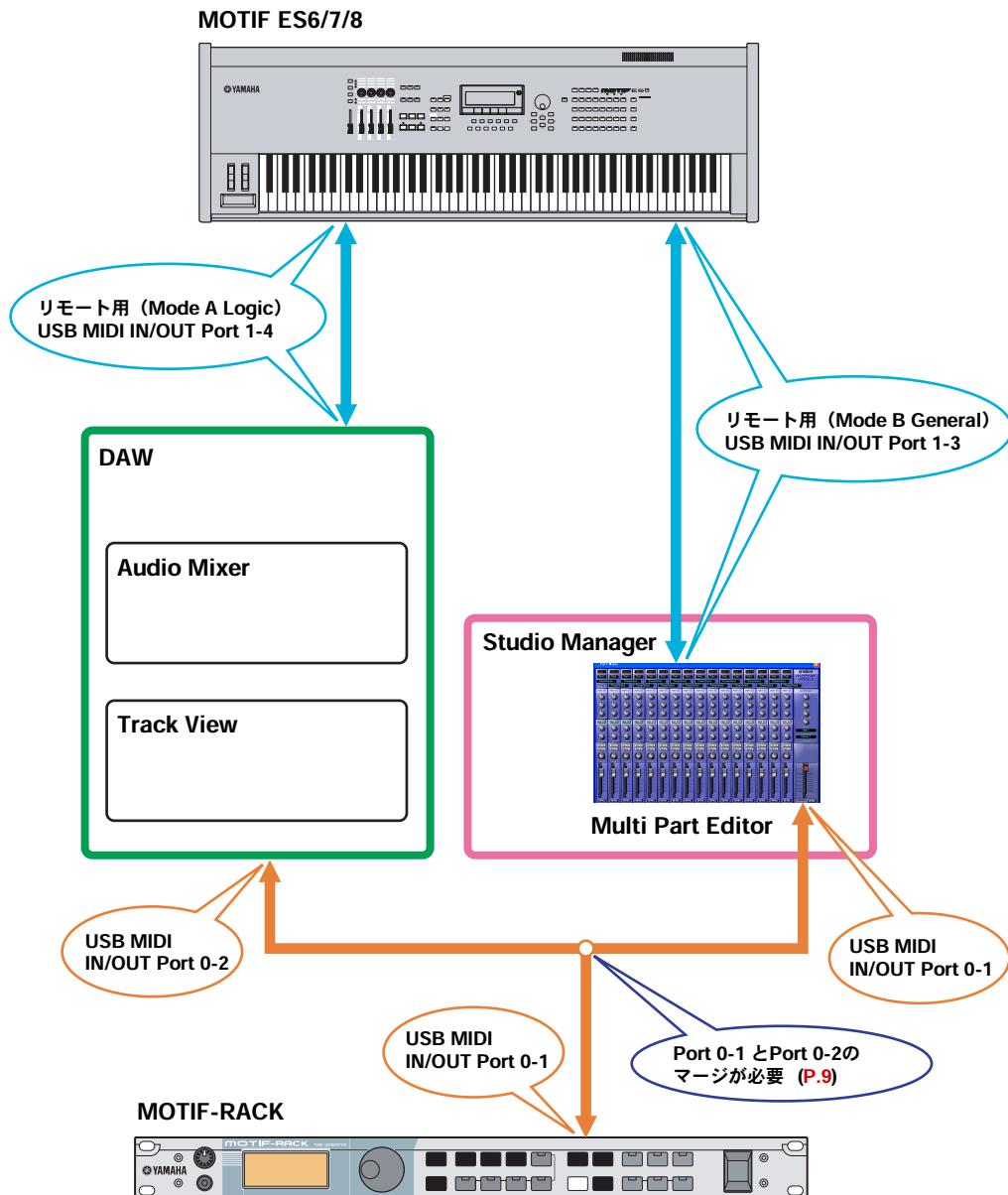
MOTIF-RACK



USB MIDI  
IN/OUT Port 0-1

### 1.3. MOTIF ES + OPT、Total Recall非対応DAW + Multi Part Editor + MOTIF-RACKの場合

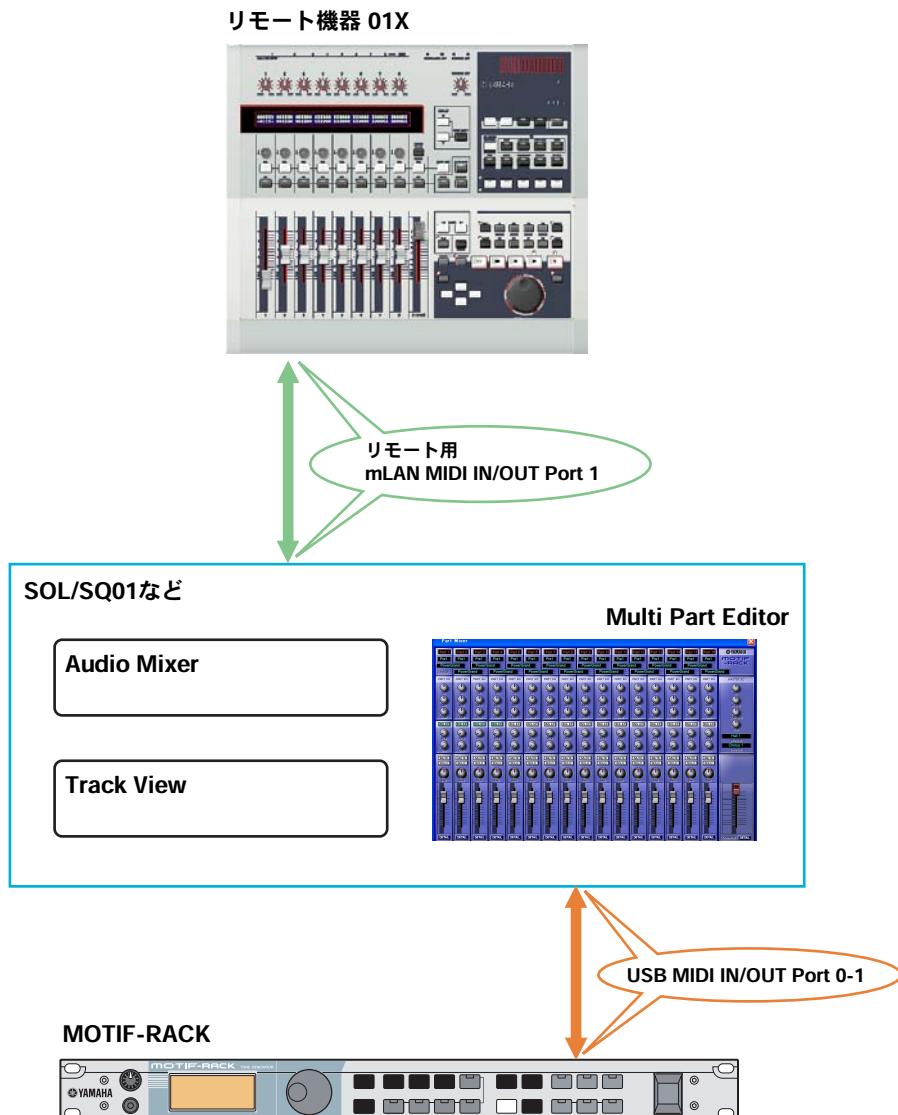
Portナンバーは自由に変更できます。



## 2 01Xを使ってリモートコントロールをする場合

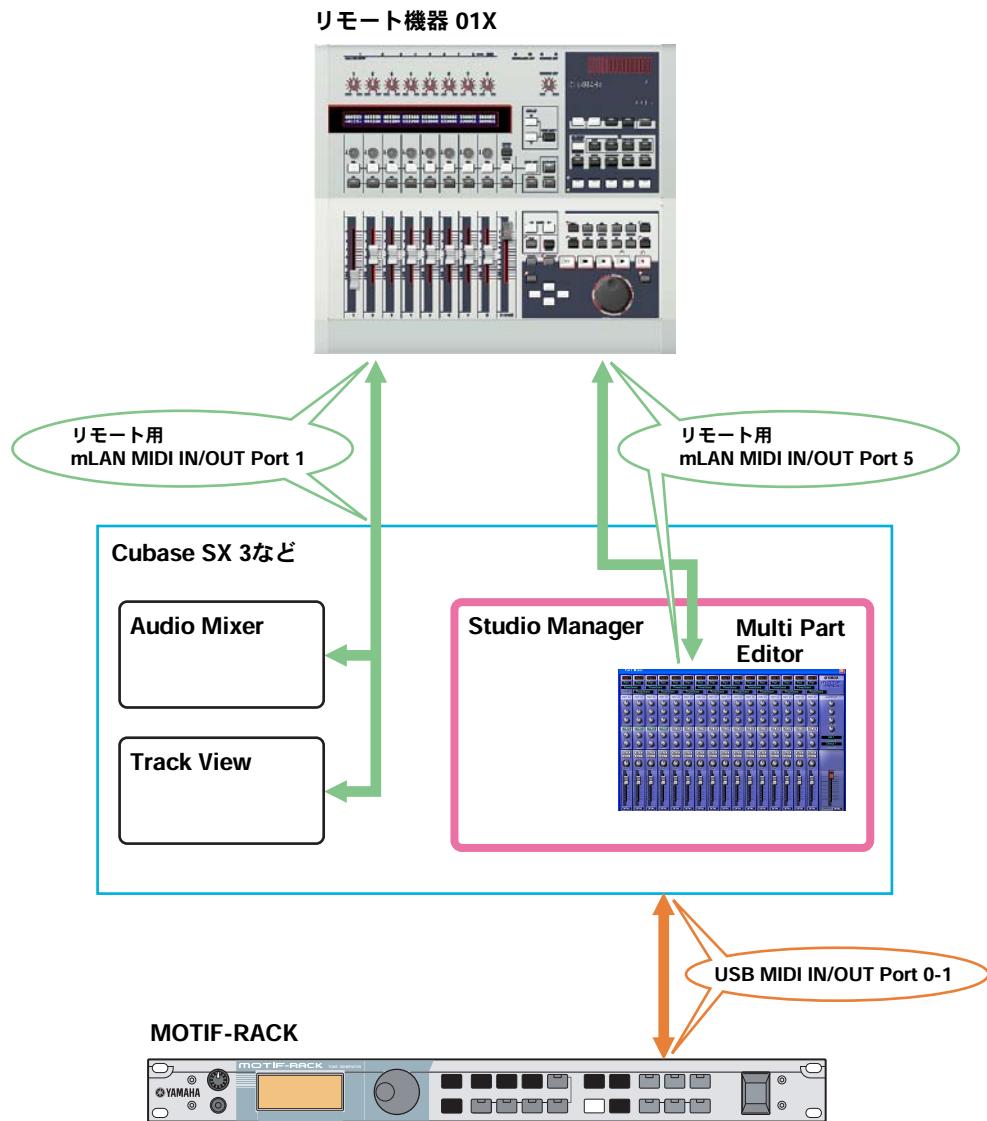
### 2.1. 01X + OPT対応シーケンサー(SOL/SQ01) + Multi Part Editor + MOTIF-RACKの場合

01Xのリモート用Port以外のPortナンバーは、自由に変更できます。



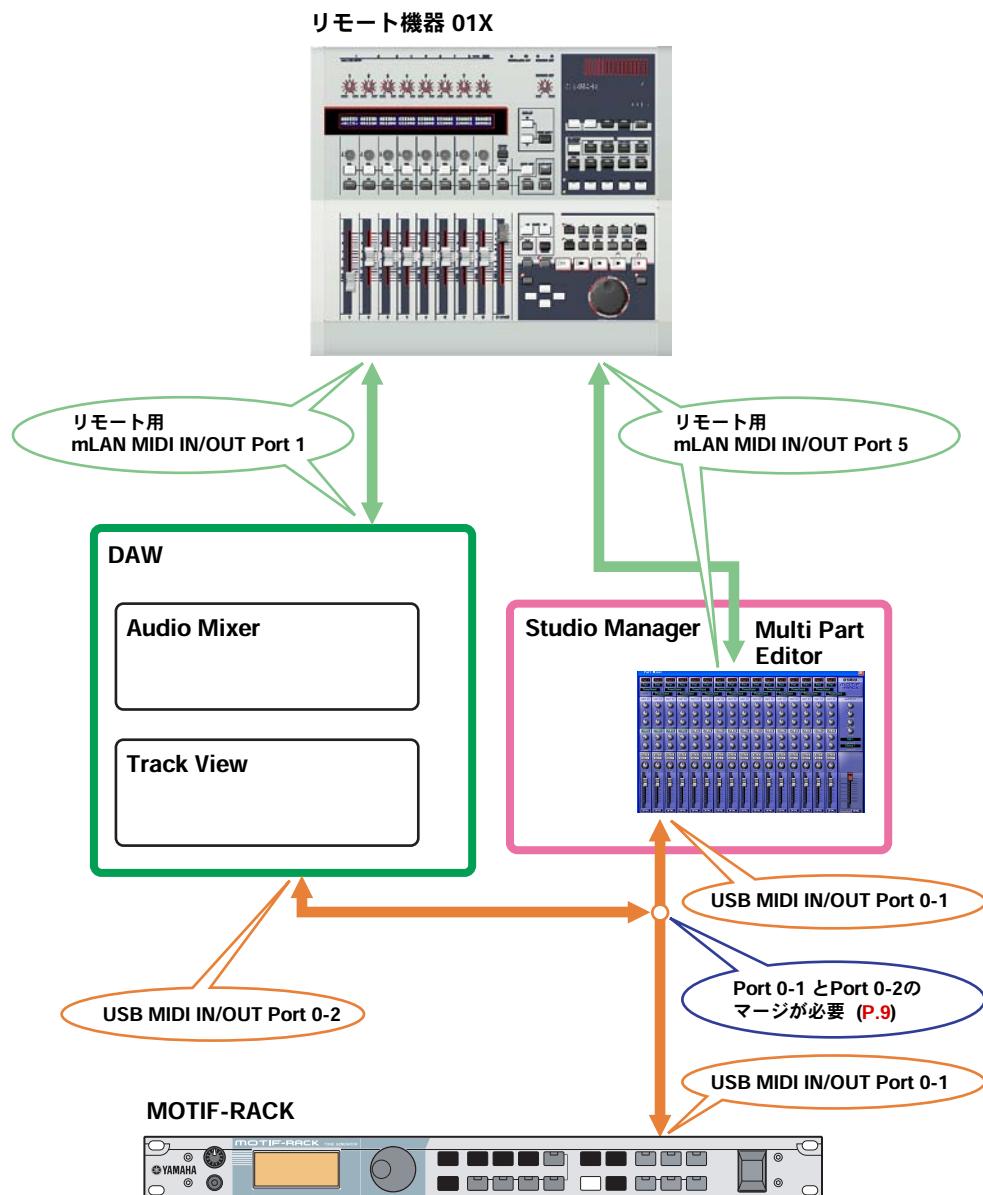
## 2.2. 01X + Total Recall対応DAW(Cubase SX 3など) + Multi Part Editor + MOTIF-RACKの場合

01Xのリモート用Port以外のPortナンバーは、自由に変更できます。



### 2.3. 01X + OPT、Total Recall非対応DAW + Multi Part Editor + MOTIF-RACKの場合

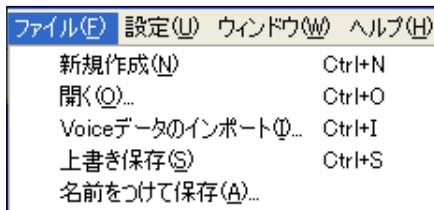
01Xのリモート用Port以外のPortナンバーは、自由に変更できます。



# メニューバー

メニューバーの各メニュー名をクリックするとプルダウンメニューが表示され、その中から必要な機能やコマンドを選択できます。選択できない機能はグレー表示されます。

## ファイル



### 新規作成

新たに曲を作成する場合などに、マルチパートエディターの設定を初期状態に戻します。

**NOTE** ユーザーポイスの設定は初期化されません。

### 開く

マルチパートエディターのファイルを開きます(P.30)。

### Voiceデータのインポート

ボイスデータのファイル(\*.W6E)をインポートします。

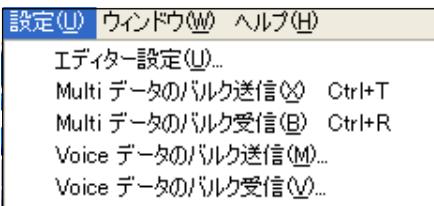
### 上書き保存

マルチパートエディターのファイルを上書き保存します。

### 名前をつけて保存...

ファイルに名前をつけて保存します。既存のファイルを別名で保存することもできます(P.30)。

## 設定



### エディター設定...

MIDIのポートの設定、デバイスナンバーなどの設定を行なうダイアログを表示します(P.31)。

### Multiデータのバルク送信

マルチの設定をMOTIF-RACKへバルク送信します(P.18)。

### Multiデータのバルク受信

マルチの設定をMOTIF-RACKからバルク受信します(P.18)。

## Voiceデータのバルク送信

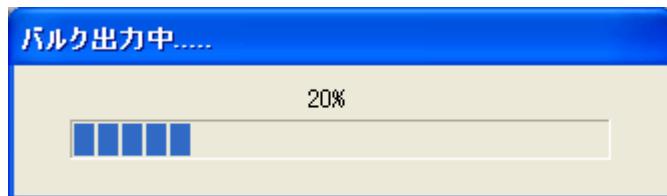
ボイスデータをMOTIF-RACKへバルク送信します(P.32)。

## Voiceデータのバルク受信

ボイスデータをMOTIF-RACKからバルク受信します(P.33)。

### Multiデータのバルク送信中の表示

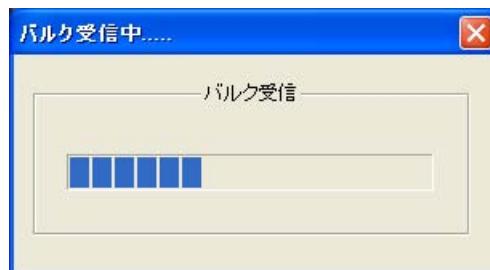
マルチパートエディター内のマルチのデータをまとめてMOTIF-RACKに送信します。バルク送信中は、バー表示でデータの送信状態を確認できます。



### Multiデータのバルク受信中の表示

MOTIF-RACKからマルチのデータをまとめてマルチパートエディターに受信します。バルク受信中は、バー表示でデータの送信状態を確認できます。

**NOTE** バルク受信ができない場合は、タイムアウトエラーメッセージが表示されます (P.37)。



# ウィンドウ

---



## 閉じる

エディター内で選択しているウィンドウを閉じます。

## すべてを閉じる

エディター内のすべてのウィンドウを閉じます。

## Part Mixer

パートミキサーウィンドウを開きます([P.21](#))。

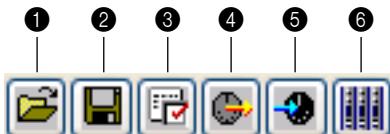
## Common Detail

コモンディテールウィンドウを開きます([P.23](#))。

## Part Detail

パートディテールウィンドウを開きます([P.27](#))。

# ツールバー



## ① 開く

マルチパートエディターのファイルを開きます([P.30](#))。

## ② 上書き保存

マルチパートエディターのファイルを保存します。

## ③ エディター設定

MIDIのポートの設定、デバイスナンバーなどの設定を行なうダイアログを表示します([P.31](#))。

## ④ Multiデータバルク送信

マルチの設定をMOTIF-RACKへバルク送信します([P.18](#))。

## ⑤ Multiデータバルク受信

マルチの設定をMOTIF-RACKからバルク受信します([P.18](#))。

## ⑥ Part Mixer画面表示

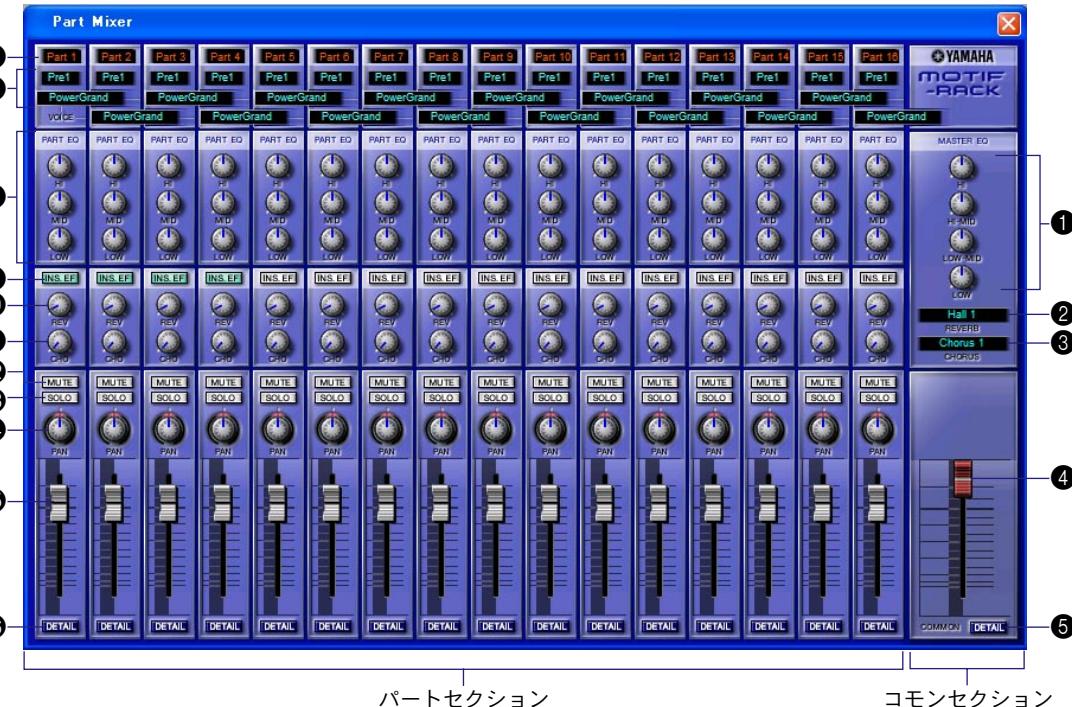
パートミキサー ウィンドウをアクティブにします。

# パートミキサーウィンドウ

マルチパートエディターを起動すると、次のようなパートミキサーウィンドウが表示されます。パートミキサーウィンドウは、コモンセクションとパートセクションから構成されています。このウィンドウで、マルチパートエディターの主なパラメーターをエディットします。

**NOTE** 各パラメーターの詳細については、MOTIF-RACK取扱説明書リファレンス編をご覧ください。

- NOTE**
- ・シーケンサーのエコーバック(MIDIスルー)機能を使っている場合、キーボードからコンピューターをスルーして本体に送信されるMIDIチャンネルは、通常、シーケンサー側で選択しているトラックの設定に従います。
  - ・したがって、キーボードを使ってエディット中のパートの音を鳴らすには、シーケンサー側で対応するトラックを選択しておく必要があります。



## コモンセクション

### ① MASTER EQ

マスターイコライザーの各パラメーターをエディットします。

### ② REVERB

リバーブエフェクトのタイプを選択します。

クリックすると、エフェクトタイプが一覧表示されます。

### ③ CHORUS

コーラスのエフェクトタイプを選択します。

クリックすると、エフェクトタイプが一覧表示されます。

### ④ Master Volume

全体のボリュームをコントロールします。

### ⑤ DETAIL

[DETAIL] をクリックすると、コモンディテールウィンドウが表示されます。ウィンドウ内の各タブで、パラメーターのエディットを行ないます(P.23)。

## パートセクション(Part1～Part16)

---

### ⑥ Part Number

パートナンバーを表示します。

### ⑦ Voice

各パートのボイス(音色)を表示します。

クリックするとボイスリストが表示され、ボイスを選択できます。

ボイスの一覧は、別冊ボイスリストを参照ください。

### ⑧ PART EQ

各パートのイコライザーをチャンネルノブでエディットします。

### ⑨ Insertion Effect Switch

インサーションエフェクトのオン/オフを切り替えます。

**NOTE** 全パートで最大4パートを、同時にオンすることができます。

### ⑩ Reverb Send

各パートのリバーブエフェクトのセンド量を調整します。

### ⑪ Chorus Send

各パートのコーラスエフェクトのセンド量を調整します。

### ⑫ Mute

各パートのミュートのオン/オフを切り替えます。

### ⑬ Solo

各パートのソロのオン/オフを切り替えます。

### ⑭ Pan

各パートのパンの調整を行ないます。

### ⑮ Part Volume

各パートのボリュームをコントロールします。

### ⑯ DETAIL

[DETAIL] をクリックすると、パートディテールウィンドウが表示されます。

ウィンドウ内の各タブで、パラメーターのエディットを行ないます(P.27)。

## コモンディテールウィンドウ

### ARPEGGIO タブ



アルペジオに関するパラメーターのエディットを行ないます。

### REVERB タブ



リバーブに関するパラメーターのエディットを行ないます。

## CHORUS タブ



コーラスに関するパラメーターのエディットを行ないます。

## MEQ タブ



マスターイコライザー(5バンド)に関するパラメーターのエディットを行ないます。

## INS EFF SW タブ



各パートのインサーションエフェクトのオン/オフを切り替えます。

**NOTE** 全パートで最大4パートを、同時にオンすることができます。

## CTRL NUM タブ



コントローラーに関するパラメーターのエディットを行ないます。

## NAME タブ



マルチ設定に名前を付けます。

## パートディテールウィンドウ

### GENERAL タブ



ジェネラルに関するパラメーターのエディットを行ないます。

### NOTE/VEL タブ



ノートリミットとベロシティに関するパラメーターのエディットを行ないます。

### PITCH タブ



各パートのピッチに関するパラメーターのエディットを行ないます。

## AEG タブ



アンプリチュードEGに関するパラメーターのエディットを行ないます。

## FEG タブ



フィルターEGに関するパラメーターのエディットを行ないます。

## PART EQ タブ



各パートのイコライザー(3バンド)に関するパラメーターのエディットを行ないます。

## RECEIVE SW タブ



各パートのレシーブスイッチに関するパラメーターのエディットを行ないます。

# ダイアログの詳細

## 「ファイルを開く」ダイアログ

マルチパートエディターのファイルを開きます(P.17)。

【NOTE】Macintoshをお使いの場合、一般的なMacintoshの[ファイルを開く]ダイアログが表示されます。



- ① ファイルの場所 ..... プルダウンメニューの中から開きたいファイルのあるフォルダーを選択します。  
② リスト ..... ファイルの場所で選択されているフォルダー内のファイルを一覧表示します。  
③ ファイル名 ..... リスト上で現在選択されているファイル名を表示します。  
④ ファイルの種類 ..... プルダウンメニューの中からリスト上に表示させるファイルの種類を選択します。  
\*.M1E/\*.M5E: MOTIF-RACK マルチパートエディターのファイル  
⑤ 開く ..... リストで選択されているファイルを開きます。  
⑥ キャンセル ..... 作業を中止して、ダイアログを閉じます。

## 「名前をつけて保存」ダイアログ

マルチパートエディターのファイル(\*.M5E)に名前をつけて保存します(P.17)。

【NOTE】マルチパートエディターのファイル(\*.M5E)は、マルチのデータ(マルチパラメーター)とユーザーボイスデータで構成されています。

【NOTE】Macintoshをお使いの場合、一般的なMacintoshの[別名で保存]ダイアログが表示されます。



- ① 保存する場所 ..... プルダウンメニューの中から保存先のフォルダーを選択します。  
② リスト ..... 保存する場所で選択されているフォルダー内のファイルを一覧表示します。  
③ ファイル名 ..... 保存するファイル名を入力します。  
④ ファイルの種類 ..... プルダウンメニューの中から保存するファイルの種類を選択します。  
⑤ 保存 ..... 名前を付けたファイルを保存します。  
⑥ キャンセル ..... 作業を中止して、ダイアログを閉じます。

## 「エディター設定ダイアログ」

MOTIF-RACKや01Xなどとデータを送受信できるように設定します(P.17)。



- ① リモート入力ポート ..... プルダウンメニューの中からリモート用MIDI入力ポートを選択します。

**NOTE** マルチパートエディターをSOL / SQ01のプラグインとして使用している場合は、SOL / SQ01側で設定しているリモート用入力ポート名が表示されます。

- ② リモート出力ポート ..... プルダウンメニューの中からリモート用MIDI出力ポートを選択します。

**NOTE** マルチパートエディターをSOL / SQ01のプラグインとして使用している場合は、SOL / SQ01側で設定しているリモート用出力ポート名が表示されます。

- ③ 入力ポート ..... プルダウンメニューの中から入力用ポートを選択します。  
設定したポートに対応したMOTIF-RACKからデータが受信できます。

- ④ 出力ポート ..... プルダウンメニューの中から出力用ポートを選択します。  
設定したポートに対応したMOTIF-RACKに対してマルチパートエディターでコントロールできます。

- ⑤ Device No.(デバイスナンバー) ..... システムエクスクルーシブデータの送受信(バルク送受信)を行なうために設定するナンバーです。このナンバーを MOTIF-RACK のデバイスナンバーと同じものに合わせます。

- ⑥ ダンプインターバル(ダンプ間隔) ..... バulk送信を行なうときのデータとデータの間隔を設定します。

- ⑦ ノブ操作方法 ..... マウスでノブを操作する方法を選択できます。  
[マウスを回転]を選択すると、操作したいノブをクリックしたままカーソルでノブを回転させて、ノブを動かすことができます。  
[マウスを上下または左右]を選択すると、操作したいノブをクリックしたままカーソルを上下、左右に移動させて、ノブを動かすことができます。

**NOTE** この変更は、すべてのノブに有効になります。

- ⑧ OK ..... 設定を完了して、ダイアログを閉じます。

- ⑨ キャンセル ..... 作業を中止して、ダイアログを閉じます。

## Voiceデータの「バルク送信ダイアログ」

マルチパートエディター内のボイスのデータをまとめてMOTIF-RACKに送信します。バルク送信中は、バー表示でデータの送信状態を確認できます。

**NOTE** MOTIF-RACKでは、ユーザーVoicesパンクの音色をユーザーMemory内の複数のマルチデータで使用しています。マルチパートエディターからユーザーVoicesをバルク送信すると、MOTIF-RACK内のユーザーVoicesデータが差し替えられ、他のマルチデータで選択しているユーザーVoicesも差し替わってしまう可能性があります。

**NOTE** いずれかのパートでユーザーVoicesをすでに選択している場合は、ボイスデータのバルク送信をした後にマルチデータのバルク送信を行なってください。マルチデータのバルク送信を行なうことで最新のボイスデータの発音準備が整います。

**NOTE** 「エディター設定ダイアログ」の「ダンピングインターバル」の設定で、送信時間を設定できます(P.31)。



① **バルク設定** ..... プルダウンメニューの中から送信するバルクダンプデータの種類を選択します。

Normal User 1+2+Drum.....すべてのNormal User 1,2ボイスとDrumボイス

Normal User 1.....すべてのNormal User 1ボイス

Normal User 2.....すべてのNormal User 2ボイス

Normal User 1+2.....すべてのNormal User 1,2ボイス

Drum User.....すべてのDrum Userボイス

**NOTE** プラグインボイスデータの送信は行いません。

② **バー表示** ..... データの送信状態を確認できます。

③ **スタート** ..... バulk送信を開始します。送信開始後は、このボタンが[ストップ]に変わり、送信中にクリックするとその時点でバルク送信を中止します。

④ **閉じる** ..... ダイアログを閉じます。

**NOTE** 「エディター設定ダイアログ」(P.31)の「デバイスナンバー」の設定で、デバイスナンバーが正しく設定されている必要があります。

## Voiceデータの「バルク受信ダイアログ」

MOTIF-RACKからボイスデータをまとめて受信して、マルチパートエディターに読み込みます。受信中は、バー表示でデータの受信状態を確認できます。

**NOTE** ユーザーボイスのエディットは、MOTIF-RACKもしくはボイスエディターで行なってください。  
マルチパートエディターでは、ユーザーボイスのエディットはできません。



① **バルク設定** ..... プルダウンメニューの中から受信するバルクダンプデータの種類を選択します。

- Normal User 1+2+Drum.....すべてのNormal User 1,2ボイスとDrumボイス
- Normal User 1.....すべてのNormal User 1ボイス
- Normal User 2.....すべてのNormal User 2ボイス
- Normal User 1+2.....すべてのNormal User 1,2ボイス
- Drum User.....すべてのDrum Userボイス

**NOTE** プラグインボイスデータの受信は行ないません。

② **バー表示** ..... データの受信状態を確認できます。

③ **スタート** ..... バulk受信を開始します。受信開始後は、このボタンが [ストップ] に変わり、受信中にクリックするとその時点でバルク受信を中止します。

④ **閉じる** ..... ダイアログを閉じます。

# リモート機能

01XやMOTIF ESなどからマルチパートエディターをリモート操作できます。

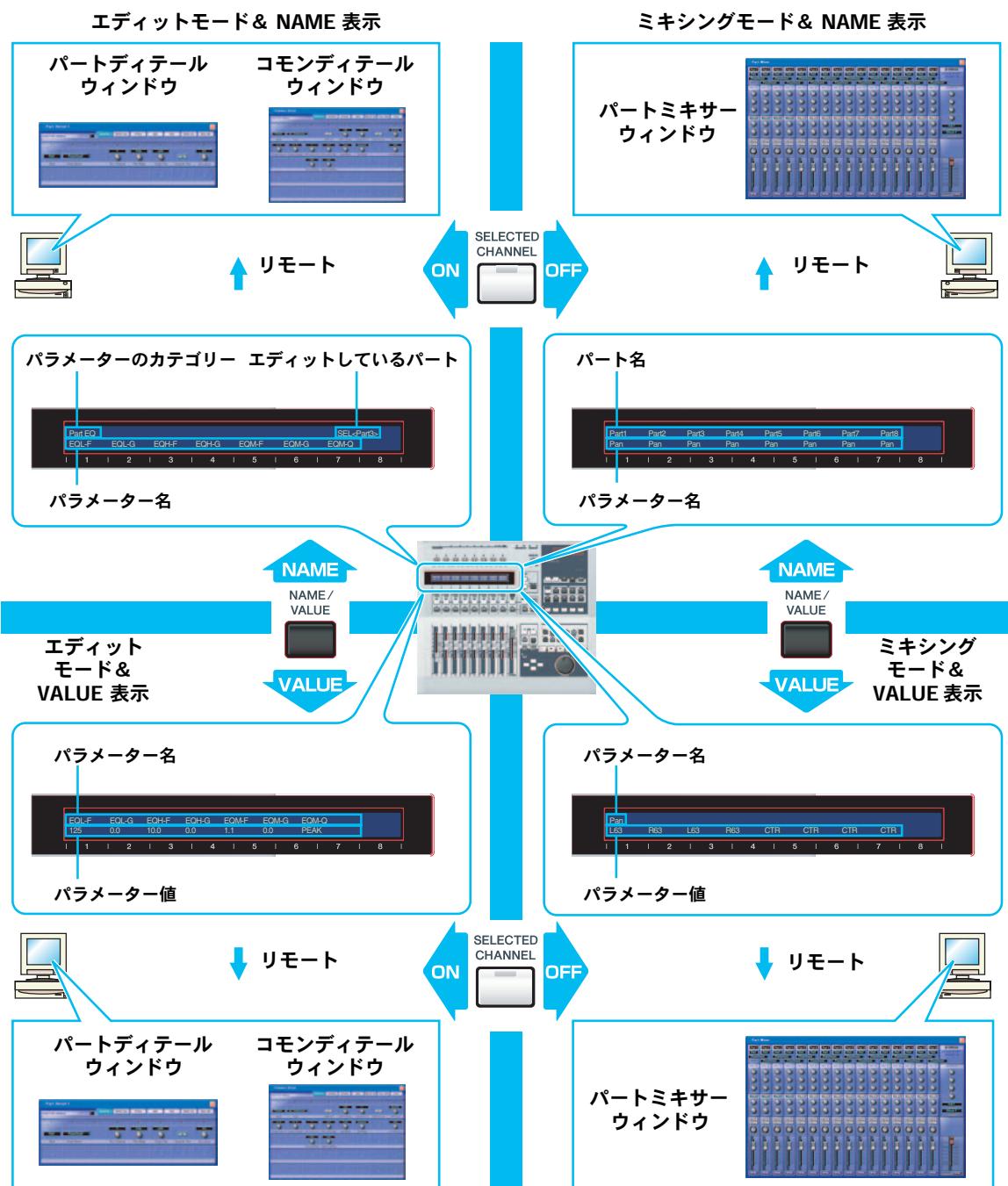
## SOL/SQ01のプラグインとして使用する場合

[REMOTE]ボタンを押したあとで[MIDI]ボタンを押すと、マルチパートエディターのリモート操作ができるようになります。

## Studio Managerから使用する場合

[SHIFT]ボタンを押しながら[REMOTE]ボタンを押すと、マルチパートエディターのリモート操作ができるようになります。

**NOTE** あらかじめリモートに必要なポート設定を行なってください(P.11、P.31)。



## 01X側からMOTIF-RACKへのリモート操作一覧

下記01Xのボタン、フェーダーに対応したMOTIF ESの操作子についてはMOTIF ES取扱説明書をご参照ください。

**NOTE** 01X画面上のCH(チャンネル)は、マルチパートエディターのPART(パート)に相当します。

### 基本操作(モード共通)

01Xの操作(ボタン名など)	リモート操作内容
[REMOTE] → [MIDI]	SOL/SQ01のプラグインとしてご使用時、リモート操作ができるようになります。
[SHIFT] + [REMOTE]	Studio Managerからご使用時、リモート操作ができるようになります。
[NAME/VALUE]	01X上の画面で、NAME表示(VALUE表示を切り替えます。
BANK◀	CH1~8に対応するパートを、パート1~8にします。
BANK▶	CH1~8に対応するパートを、パート9~16にします。
[SELECTED CHANNEL]	ミキシングモードとエディットモードを切り替えます。
ノブを回転	選択されたパラメーターの値を変更します。
ノブを押す	オン/オフするパラメーターの場合に、パラメーターのオン/オフを切り替えます。
[SHIFT]+ノブを回転	通常の10倍の変化量で、パラメーターの値を変更します。
[SHIFT]+ノブを押す	選択されたパラメーターを初期値に設定します。

### ミキシングモードの操作

フェーダー	各パートのボリュームやマスター・ボリュームをコントロールします。
[ON]	SOLOボタンが点灯しているときには、各パートのSOLOオン/オフを切り替え、SOLOボタンが消灯しているときには、各パートのオン/オフを切り替えます。
ノブでコントロールするパラメーターの選択方法	
DISPLAY ▲▼	エディットするパラメーターを1つずつ切り替えます。
[PAGE SHIFT]+DISPLAY ▲▼	エディットするパラメーターをブロックごとに切り替えます。
[PAN]	パンを選択します。
[SEND]	リバーブセンドを選択します。
[GROUP]	ボイスセレクトを選択します。
[EFFECT]	インサーションエフェクトのオン/オフを選択します。
[SEL](マスター)	マスターEQを選択します。
EQ [LOW]	EQ LOWを選択します。
EQ [LOW-MID] / [HIGH-MID]	EQ MIDを選択します。
EQ [HIGH]	EQ HIGHを選択します。

## エディットモードの操作

[SEL] (CH1 ~ 16)	対応したパートの パートディテールウィンドウを表示します。
[SEL] (マスター)	コモンディテールウィンドウを表示します。
ノブでコントロールするパラメーターの選択方法	
[PAGE SHIFT]+DISPLAY ▲▼	タブを切り替えます。
DISPLAY ▲▼	エディットするパラメーターの段を選択します。
ノブ (CH1~8)	選択したパラメーターの左からCH1ノブ、CH2ノブ…の順で割り当てられます。たとえば、画面上の左から3つ目のパラメーターを変更したいときは、CH3ノブで調整します。

# トラブルシューティング

「音が出ない」、「正常に動作しない」などといった場合には、まずMOTIF-RACKとの接続を確認したあと、以下の項目をチェックしてください。

## スライダーやチャンネルノブを操作しても音色(音の聞こえ方)が変わらない。

- ・「設定」ダイアログの出力ポート(MIDI Out)やDevice No.が正しく設定されていますか？(P.31)

## バルクデータの送信ができない。

- ・「設定」ダイアログの出力ポート(MIDI Out)やDevice No.が正しく設定されていますか？(P.31)
- ・「設定」ダイアログのダンプインターバルの設定を短くしすぎていませんか。ダンプインターバルの設定を調節してください。

## バルクデータの受信ができない(タイムアウトエラーメッセージが表示される)。

- ・「設定」ダイアログの入出力ポート(MIDI IN/OUT)やDevice No.が正しく設定されていますか？(P.31)
- ・お使いのホストアプリケーションによっては、ホストアプリケーションで設定されているMIDI スルーポートをオフにする必要があります。
- ・マルチパートエディターをSOL/SQ01のプラグインとしてご使用の場合は、SOL/SQ01の[設定]メニュー→[MIDI]→[システムエクスクルーシブ]を開き、受信バッファサイズを小さくしてみてください。

## エディター設定の入出力ポートで選択したいポート名が表示されない。

- ・「設定」ダイアログの入出力ポートは、ホストアプリケーションのMIDIセットアップのMIDI Out/Inで設定されているポートの中から選択できます。ホストアプリケーションのMIDIセットアップでMIDI Out/Inの設定を確認してください。

## リモート操作ができない。

- ・「設定」ダイアログのリモート入出力用ポートが正しく設定されていますか？(P.31)
- ・MOTIF ESや01Xなどのリモート機器側で正しい設定がされていますか？MOTIF ESや01Xをリモート機器としてご使用の場合、REMOTEボタンとMIDIボタンがオン(点灯)されているか確認してください。

## ユーザー voices を選択しているパートが適切な音色で発音されない。

- ・ユーザー voices のデータをMOTIF-RACKと合わせていますか？(P.32)  
ユーザー voices のバルク送信をしたあとに、マルチデータのバルク送信を行なうことで最新のボイスデータの発音準備が整います。

## リモートコントロール時にオーディオにノイズがのる。

### Windows XP:

- ・コンピューターのBIOSから、Hyper-Threadingを有効にすることで解決することができます。詳細は、お使いのコンピューターの取扱説明書をご参照ください。